

スタートラインを決める

ケーススタディを調べる

相互学習の場を作る、計画を立てる

ズームイン / ズームアウトしながら
協同作業を進める

成果と合意を検討し、次につなげる

部屋のなかの

象

誰もが気付いているはずなのに
目を伏せて話題にしたがらない問題
いまこそ扱うときかもしれない



巨人の 肩の上 に立つ

先人の築いた礎を利用しよう
先行研究は、より多くの知見を受け
より遠くの地平を見せてくれる



門前の 小僧、 習わぬ経を読む

初めて聞くような専門用語も
仲間の話に耳を傾け続ければ
いずれ身体に馴染んでいく



群盲、 象を評す

1人1人は一部分しか知りえない
けど、そのひとかけらを持ち寄れば
全体像に少し近付けるかもしれない



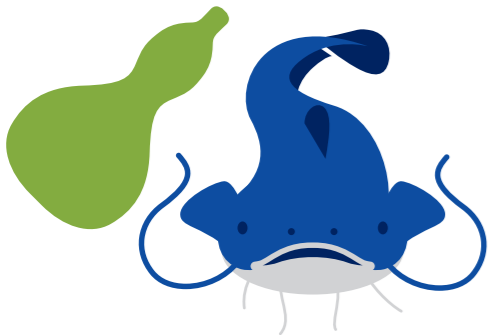
小さな 勝利 を重ねる

大きな壁を乗り越えるために
小さな階段を積み重ねる
小さな失敗なら挽回もカンタン



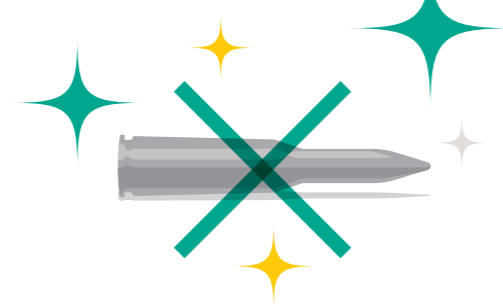
瓢箪で なまずを 押さえる

状況は時々刻々と変化していくもの
力で押さえつけることはできない
逃げられ続けて、追いかける



銀の弾丸 など ない

全ての問題を一発の弾で
解決できると期待しないこと
状況の複雑さに向き合う



最善 を望み、 最悪 に備えよ

望ましい未来のビジョン、
想定外の事態のための余力、
両方プランに織りこもう



早く行きたければ ひとりで行け 遠くまで行きたければ みんなで行け

1人の作業、共同作業
それぞれメリット・デメリットがある
いま適切なのはどちらだろうか



僕 たちの 庭 を耕す

ここまでの活動で得られた経験を
自分のフィールドに持ち帰ろう
新しい発見はある?



協働のための 10 の寸言

協働のための 10 の寸言	こんな時に思いだそう	問題を放置すると?	どのように対処する?
<p>部屋の中の象</p>	<p>気がかりことがあるが、それについて発言すると面倒な事になるかもしれない。</p>	<p>故意の盲目の発生。問題に目をつぶり続けると、リスクが増大する可能性が高い。</p>	<p>最悪の未来を想像し、それを避けるための対策を練るプレモータム・シンキングを重ねる。 *山崎裕二(2018)『先にしくじる』日経BP</p>
<p>瓢箪でなまずを押さえる</p>	<p>状況が変化し、最初に決めたゴールやタスクが現状に合わなくなっている。</p>	<p>意義を失った行動や計画を惰性で続けることになり、貴重なリソースを消耗する。</p>	<p>複数の未来のシナリオを描き、場合分けして計画を立てる【シナリオ・プランニング】を導入する。 *A・カヘン(2014)『社会変革のシナリオ・プランニング』英治出版</p>
<p>巨人の肩の上に立つ</p>	<p>行き当たりばつりに、思いついた端から行動に移している。</p>	<p>先行研究や類似の事例を調査することなく行動すると、車輪を二回発明することになる。</p>	<p>Google Scholar で、英語で資料を検索する。図書館のレファレンスカウンターで相談する。 *読書猿(2020)『独学大全』ダイヤモンド社</p>
<p>銀の弾丸などない</p>	<p>全ての問題をまとめて一度に解決できる方法を見つけたかもしれない。</p>	<p>一つの手段や知見に固執すると、想定していなかった落とし穴や副作用に見舞われる。</p>	<p>都合の悪い情報を無視してしまう確認バイアスを乗り越えるために、あえて反例・反論を集める。 *D・カーネマン(2014)『ファスト&スロー<上・下>』早川書房</p>
<p>門前の小僧、習わぬ経を読む</p>	<p>他のメンバーが何を話しているか理解できず、話題に取り残されている。</p>	<p>コミュニケーション不全は疎外感を生み、メンバーの士気の低下を招く。</p>	<p>誰でも最初は正統的周辺参加。足場を見つけて、いろいろ話し、尋ねて、ゆっくり耳を慣らす。 *J・レイブ(1993)『状況に埋め込まれた学習』産業図書</p>
<p>最善を望み、最悪に備えよ</p>	<p>プロジェクトの計画を立てるときに、理想論と慎重論のどちらかに傾いてしまう。</p>	<p>楽観論がはびこり問題が見えなくなる。悲観的になりすぎて身動きがとれなくなる。</p>	<p>6種類の視点を切り替えながらプランを検討するシックスハット法を試す。(シナリオ・プランニングとの併用も) *E・デボノ(2015)『6つの帽子思考法』パンローリング</p>
<p>群盲、象を評す</p>	<p>メンバーのあいだで現状認識や問題意識が異なり、意見がまとまらない。</p>	<p>必要な対策について合意がとれない。声の大きい人の意見ばかりが通ってしまう。</p>	<p>意見を書いた紙を回覧板のように回して書き足すブレインライティングで現状認識を棚卸しする。 *徳永・立川(2017)『T式ブレインライティング』の教科書』三冬社</p>
<p>早く行きたければひとりで行け 遠くまで行きたければみんなで行け</p>	<p>メンバーは多いほど良い活動ができるに違いないと思っている。</p>	<p>無闇にメンバーを増やすと、コミュニケーションコストが増大し、意思決定に時間と労力がかかりすぎる。</p>	<p>心理的安全性を維持し、メンバー間の相互学習を妨げないようなサイズのチームにする。 *A・エドモンドソン(2014)『チームが機能するとはどういうことか』英治出版</p>
<p>小さな勝利を重ねる</p>	<p>目標は達成できたが、社会に劇的な変化を生み出せないことに無力感を抱いている。</p>	<p>より革新的な変化をもたらしてくれそうな方法にばかり目が向き、足下が覚束なくなる。</p>	<p>短期間のプロジェクトで小さな勝利を収め、信頼と実績を得て、次のわずかに大きな勝利を目指す。 *Weick, K. E. (1984). Small wins. American psychologist, 39(1), 40-49.</p>
<p>僕たちの庭を耕す</p>	<p>プロジェクトは無事に終わったが、やりっぱなしになっている。</p>	<p>成果がメンバーや現場に還元されない。せっかくの成功が、次の活動に活かされない。</p>	<p>経験学習の省察にあたる時間を確保する。事後検討会や追跡調査も、次の一手につなぐのに効果的。 *D・コルブ,K・ピーターソン(2018)『最強の経験学習』辰巳出版</p>